



生涯探 Cue 時代の NIE

～ 学びが紡ぐキャリアと地域 ～

兵庫県立神戸甲北高等学校

教諭

久保 淳平

1 要旨

本校は「自主 協調 創造」の理念のもと、確かな学力と主体的な課題解決能力、豊かな人間性を備え、グローバル社会で主体的・創造的に未来を切り拓き、活躍できる人材を育てることをミッションとして、教育活動を展開している。

令和7年度からは県立神戸北高等学校との発展的統合により、これまでの歴史と伝統を引き継ぎ、**県立北神戸総合高等学校**として新たな歩みを始めている。

NIEの実践指定を受け、**生徒が主体となって生涯探究時代を生き抜く力を身に付け、自己のキャリアや地域課題などを考えるきっかけ（Cue）となることを目的として取り組んだ、令和6年度の実践を報告する。**

2 活動・実践のきっかけ

本校が位置する神戸市北区は、急激な高齢化が進んでいる。「神戸市町丁別の統計 住民基本台帳に基づく人口（町丁目別 年齢別）」によると、**令和5年3月末時点において、本校近隣の高齢化率は29%～46%に及ぶ。**

町丁名	高齢化率
大脇台	29%
惣山町	46%
若葉台	36%
甲栄台	41%
山田町小部	40%
泉台	42%

▲ 表1：本校近隣の高齢化率（令和5年3月末時点）

こうした状況において、**地域の未来を担う若者が「まち」について考え、関心を持つことは、地域社会の持続可能性に直結すると考える。**新聞記事を通じて社会の動向を知り、それを自身の未来や地域との関わりに結びつけることで、「**課題を発見する力**」や、「**問いを立てる力**」「**他者と協働して思考を深める力**」を育成し、**キャリア形成・地域課題解決につなげる学びを設計すること**を目的とし、実践を進めた。

3 具体的な実践内容

実践① 「週刊探Cue!」（オリジナルワークシート）の発行

朝学習の時間にオリジナルの新聞ワークシートを配布し、**時事問題への関心を高めた。**単なる記事の要約にとどまらず「この問題の背景には何があるのか」「私たちの生活とどう関係するのか」といった**探究的な問いを設定し、思考を促した。**この活動を通じて、生徒は**新聞を通じた学びを習慣化し、社会の動向に主体的に関心を持つ力**を育成した。専門部・年次問わず多くの教員が作成に関わり、令和6年度は21号発行した。



▲ 図1：令和6年度の週刊探Cue!（一部）

実践② 総合的な探究の時間における取組

「問いづくり」を基盤とした探究活動

総合的な探究の時間「K-Standard」において、**新聞記事を活用した「問いづくり」**に取り組んだ。単なる記事の読み取りにとどまらず、「この報道の裏にはどのような背景があるのか」「この課題に対し、自分は何ができるのか」といった視点を重視した。これにより、生徒は**社会課題を多角的に捉え、自らの探究テーマを発展させる力**を養った。

記者派遣講演

新聞を通じた探究活動の深化に向け、2024年6月18日、神戸新聞NIE・NIB推進部の三好正文シニアアドバイザーによる講演を実施した。新聞記事の書き方の工夫や、タイトルの付け方のポイント、取材の手法や記事作成のプロセス、プレゼンテーションの技法などについて学ぶことで、**一連の探究サイクルを体験**した。講演後、生徒たちはフィールドワークにおいて記者の視点も意識しながら情報を集め、探究活動に取り組んだ。



▲ 図2：三好アドバイザー講演時の様子

実践③

社会的思考と表現力・創造力の育成

防災・主権者教育と新聞活用

公民科の学校設定科目「神戸の研究」において、**新聞を活用した防災・主権者教育を実施**した。阪神・淡路大震災の新聞記事を教材とし、災害時の情報の伝え方や報道の影響について考察した。また、神戸市会との連携行事では、「震災の記憶をどう継承するか」「これからの防災教育のあり方」などについて生徒が神戸市会へ提案し、市議員と意見を交わした。**新聞を通じて過去の出来事を学び、社会との接続を実感する機会**を設け、現代社会に応用する力を育成することができた。

記事を通じた主体的な思考の育成

1年次では「推し記事コンクール」を実施し、各自が最も関心を持った記事を選び、その理由を言語化・発表することで、「選ぶ→考える→伝える」のプロセスを訓練した。**生徒同士のフィードバックを通じて、視点の多様性を学ぶ機会**とした。

2・3年次では、神戸新聞「正平調」や朝日新聞「天声人語」、毎日新聞「余禄」を題材に、BYOD端末を活用した**文章構成の理解・論理的思考の強化**を図った。タイトル付けや要約トレーニングをBYOD端末にて実施。**情報の本質を短く表現する力**を養い、小論文指導とも連携して表現力を強化した。



▲ 図3：自分の推し記事を探す生徒の様子

対話型学習による思考の深化・創造力を養う新聞活用

「新聞感想文コンクール」や「いっしょに読もう！新聞コンクール」を実施し、「記事の核心は何か」「異なる視点からどう捉えられるか」について互いに意見を交わした。新聞を**単なる情報収集ツールではなく、社会課題を考え、対話を生み出す教材として活用する意識を醸成**した。

1年次の産業社会と人間「K-Basic」では「アンコンシャスバイアスからの解放」と題し、無意識の偏見に気づき、克服することを目的とした授業を実施。白黒写真のみを提示し、その**背景や状況を自由に想像させた後、新聞記事と照らし合わせることで、生徒が持つ先入観を顕在化**させた。**情報の受け取り方や、社会の中に潜むバイアスについて対話的に深く考察する機会**を提供することができた。

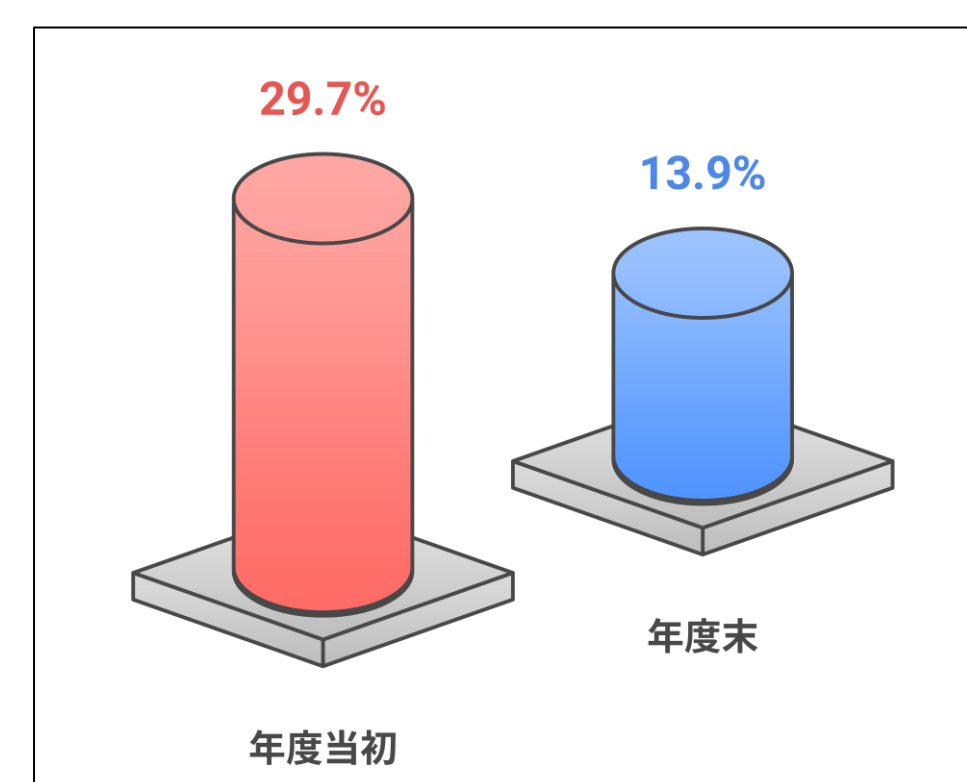
総合的な探究の時間「K-Standard」子ども学ゼミでは、幼児向けの遊び道具として新聞を活用。古新聞を使った輪投げやおもちゃ作りを考案し、神戸親和大学主催キッズオープンキャンパスでワークショップを開催するなど、**新聞を使った知育活動の実践を行い、新聞が持つ表現の可能性を探究する場**を設けた。

文化祭においては、新聞を使ったアート作品を制作し、新聞ならではの質感や色合いを活かし、**単なる廃材ではなく創造的な素材として新聞を活用する視点**を育てた。

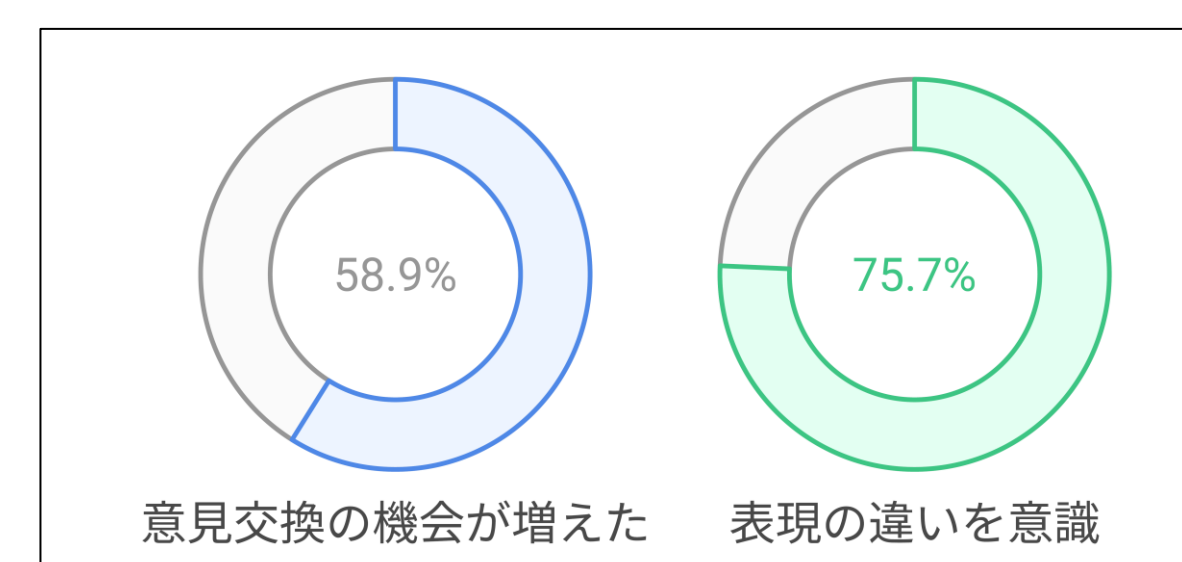
4 成果と課題

成 果

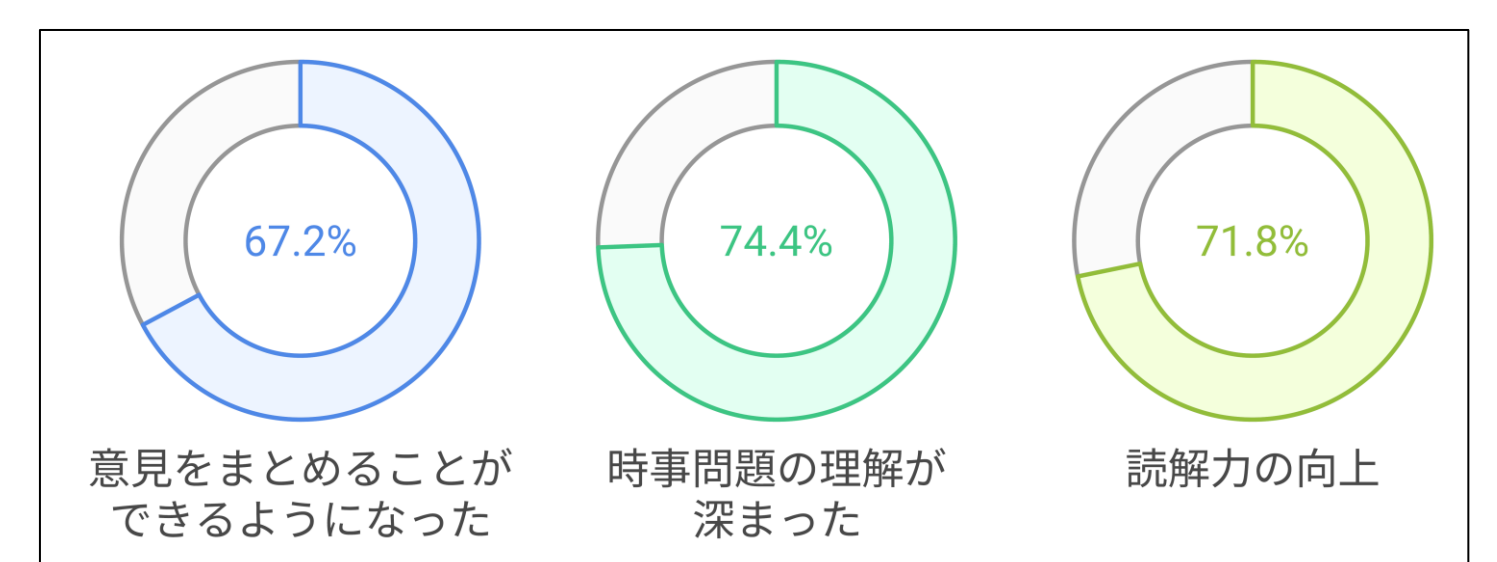
令和6年度のNIE活動を評価するために、本校に在籍する1・2年次生徒（N=387）を対象にアンケートを実施した。その結果、**①新聞への抵抗感の低下、②新聞を活用した対話力の向上、③思考力・表現力・読解力の向上**といった点で一定の成果を得ることができた（図4～図6参照）。**NIEへの校内における関係人口も大幅に増加し、新聞と地域・学校との結びつきの強化**を生徒・教員ともに感じる事ができた。今後の継続が求められるだろう。



▲ 図4：新聞を読むことへの抵抗感の減少



▲ 図5：新聞を活用した対話力の向上



▲ 図6：思考力・表現力・読解力の向上

課 題

一定の成果が得られた一方で、新聞をより主体的・継続的に活用するための課題も浮き彫りとなった。**メディア環境の変化による他メディアとのすみわけや生徒の情報行動、家庭との連携といった視点を考慮しながら、より発展的なNIE実践を推進していく必要がある。**